

JACET Kansai Newsletter

No. 105

September 15, 2026

一般社団法人大学英語教育学会関西支部 (JACET Kansai Chapter)

支部長: 石川慎一郎 (神戸大学) (Chapter President: Shin'ichiro ISHIKAWA, Kobe University)

事務局: 〒630-8258 奈良県奈良市船橋町 10

奈良県立大学地域創造学部 大槻きょう子研究室内 JACET 関西事務局 大槻きょう子
(Chapter Office: c/o Kyoko Otsuki, Faculty of Regional Promotion, Nara Prefectural University,
10 Funahashi-cho, Nara city, Nara 630-8258)

URL: <http://www.jacet-kansai.org/> (関西支部へは左の URL からご連絡ください)

■副支部長挨拶■

(松田紀子・SIG 担当)

昨年度より関西支部の副支部長を拝命しております、近畿大学の松田紀子です。昨年度の Newsletter では、教員・研究者として成長できる場としての研究会 (SIG) について書かせていただきました。その後、2026 年 3 月より、研究会は「JACET 関西支部連携研究会」となり、関西支部独自の役員任期に関する規定の廃止など、一部見直しが行われました (<https://jacet-kansai.org/sigs/>)。では、「連携」となったことで、何が変わったのでしょうか。

「連携」とは「互いに連絡をとり協力して物事を行うこと」とされています (小学館『デジタル大辞泉』)。現在、8 つの関西支部連携研究会があり、その中には、他支部に所属する先生方が代表や副代表を務めておられる研究会もあります。このような活動の実態からも、研究会がすでに支部の枠を越えて人をつなぐ場となっていることがうかがえます。一方で、支部講演会や支部大会においても、研究会は引き続き重要な役割を担っています。こうした支部内外をつなぐ「連携」の場として、研究会の役割は今後さらに広がっていくのではと感じています。

そして今後は、JACET 全体にとっても研究会の存在意義がさらに大きくなるのではないかと思います。生成 AI が急速に発達し、個人でできることが増える中、人が集い、対話し、思いや感情を分かち合う価値を改めて感じるからです。また、研究上のアイデアについて気軽に意見を交わしたり、異なる大学や世代の人々と継続的につながったりできることも、研究会ならではの価値ではないでしょうか。

これまで研究会を築き、活動を継続してこられた先生方から、学ばせていただきたいことが多くあります。今後、研究会の活動がさらに充実していくために、関西支部としてどのような形で先生方とご一緒できるのか、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。これまで研究会が大切にしてくださったものを受け継ぎながら、皆さまとともに考え、研究交流の輪をさらに広げていければと思います。

■副支部長挨拶■

(山中司・紀要担当)

昨年度より副支部長を仰せつかりました立命館大学の山中司です。昨年度より JACET 関西の紀要の仕事に携わりまして、本紀要が、本当にしっかりとしたプロセスで、丁寧かつ真摯な査読システムに基づいていることを強く実感しました。是非とも、これをお読みになっている先生方ご自身の投稿、そして周囲の皆さまに JACET 関西紀要へのご投稿をお勧め頂けましたら幸いです。まさに査読のやり取りの機会を通して、投稿者が「成長できる」貴重な機会でもあることを自信を持ってお伝えできます。是非ともご投稿をご検討下さい。

話は変わりますが、JACET が昨今、少しずつですがその転回を見せております、「応用言語学」の学会としてのあり方について一言申し上げます。かつて JACET が AILA の加盟団体へ立候補した際、「JACET は英語教師の集まりであり、応用言語学の学術団体ではない」と指摘され、小池生夫名誉会長が「その通りだ」と心の中で思いながらも、名演説を経て認可を勝ち取った経緯があります。私たちは、主として大学で英語教育に携わる場合が多いと思われませんが、英語教師である以上に、応用言語学の研究者として、実践を理論に、理論を実践につなぐ使命があると思っています。日本の応用言語学研究は、日本でしかできません。そして必ずや世界の応用言語学研究に貢献し得る研究ができます。

昨今の生成 AI による英語教育への激震は、まさに私たち英語教員がこれまで経験したことのない地平を拓きつつあります。そうした時にも、闇雲に現状を批判したり、近視眼的な取り組みのみに固執するのではなく、応用言語学理論の塗り替え、乗り越えも含めた、幅広く意欲的な研究が積極的になされるべきだと思っています。そうした発信源こそが、JACET 関西であつたら良いと心から思っております。私自身も精進致します。

■支部連携研究会のご案内■ Information on the Chapter-related SIGs

関西支部では 8 つの研究会が活発に活動しています。以下に、本年度の各研究会名、代表・副代表者名、代表・副代表者連絡先を紹介します。各研究会への入会を希望される方は、興味・関心のある研究会の代表者までお気軽にお問い合わせください。なお、入会受付の状況は研究会によって異なる場合があります。最新の活動情報は、支部ホームページ (<https://jacet-kansai.org/sigs/>) にてご確認ください。

The Kansai Chapter has the following 8 Special Interest Groups (SIGs) that meet regularly. Please refer to the Kansai Chapter website (<https://jacet-kansai.org/sigs/>) for more information, or contact the leader of the SIG in which you are interested.

◆文学教育研究会 (Literature in Language Education)

代表：杉村 醇子 (阪南大学)
sugimura[AT]hannan-u.ac.jp
副代表：齋藤 安以子 (摂南大学)
asaito[AT]ilc.setsunan.ac.jp

◆学習英文法研究会 (Pedagogical English Grammar)

代表：萩澤 大輝 (近畿大学)
hagisawa[AT]bus.kindai.ac.jp
副代表：前田 宏太郎 (愛媛大学)
maeda.kotaro.gg[AT]ehime-u.ac.jp

◆ESP(関西)研究会 (ESP Kansai Chapter)

代表：照井 雅子 (神戸学院大学)
terui[AT]gc.kobegakuin.ac.jp
副代表：仁科 恭徳 (神戸学院大学)
ynishina[AT]gc.kobegakuin.ac.jp
副代表：浅野 元子 (大阪医科薬科大学)
motoko.asano[AT]ompu.ac.jp
副代表：石井 達也 (高知大学)
t-ishii[AT]g.kochi-u.ac.jp
副代表：中嶋 アンディ 史人 (神戸学院大学)
andynakajima[AT]gc.kobegakuin.ac.jp
副代表：MUSTY, Nicholas (神戸学院大学)
n.musty[AT]gc.kobegakuin.ac.jp

◆「海外の外国語教育」研究会 (Foreign Language Education Abroad)

代表：山川 智子 (文教大学)
yamakawat[AT]bunkyo.ac.jp
副代表：大場 智美 (多摩大学)
ohba-t[AT]tama.ac.jp

◆教材開発研究会 (Material Design and Development)

代表：石川 有香 (名古屋工業大学)
ishikawayuka.jp[AT]gmail.com
副代表：仲川 浩世 (大阪女学院大学)
hcarrots[AT]gmail.com

◆リスニング研究会 (Listening)

代表：松村 優子 (近畿大学)
favoritemelody2015[AT]gmail.com
副代表：神野 雅代 (四天王寺大学)
kanno[AT]shitennoji.ac.jp

◆リーディング研究会 (Reading)

代表：原田 洋子 (大阪公立大学)
brisk4050[AT]ta2.so-net.ne.jp
副代表：村岡 有香 (聖学院大学)
y_muraoka[AT]seigakuin-univ.ac.jp

◆授業学 (関西) 研究会 (Developmental Education Kansai Chapter)

代表：工藤 泰三 (名古屋学院大学)
taizo[AT]ngu.ac.jp
副代表：中村 詩のぶ (武蔵大学)
nash0715[AT]cc.musashi.ac.jp

■ 2026 年度第 1 回支部講演会の報告 ■

Report on the 1st Chapter Lecture Meeting of 2026

JACET 関西支部第 1 回支部講演会が 2026 年 6 月 20 日 (土) にオンライン(Zoom)にて開催されました。小田眞幸先生がご自身の経験を交えながら日本の英語教育の発展を振り返られ、ネイティブスピーカー規範を超えた持続可能で革新的な英語プログラムの開発を応用言語学が支える重要性を語られました。

また第二部として、石川慎一郎先生とのご対談が設けられ、英語教育の枠を超えた思考、革新を起こす態度の必要性が語られました。英語教育の現状や今後を考える有意義な機会となり、盛況のうちに終了しました。

日時：2026 年 6 月 20 日 (土) 15:20~17:00

会場：オンライン(Zoom)

講師：小田眞幸先生 (玉川大学)

演題：Applied Linguistics in Action: Developing an ELF-aware language center

The Kansai Chapter first Lecture Meeting of the 2026 academic year was held online (Zoom) featured Professor Masayuki Oda, who looked back on the development of English education in Japan, sharing his own experiences, and spoke about the importance of applied linguistics in supporting the development of sustainable and innovative English programs that go beyond native speaker norms.

In the second part, there was a dialogue with Professor Shin'ichiro Ishikawa, where they talked about the need for thinking beyond the boundaries of English education and the mindset to drive innovation. It was a valuable opportunity to think about the current state and future of English education.

Date: Saturday, June 20, 2026, 15:20–17:00

Venue: Online (Zoom)

Lecturer: Masayuki ODA (Tamagawa University)

Title: Applied Linguistics in Action: Developing an ELF-aware language center

■2026 年度第 1 回研究交流会 REP 報告■

Research Exchange Platform (REP), First Meeting

本年度第 1 回研究交流会 REP (Research Exchange Platform) が、2026 年 6 月 20 日 (土) にオンラインで開催されました。

今回の交流会では、政治的フライヤーにおける人称代名詞の用法を批判的談話分析の観点から検討した研究、AI 発音学習ツール「ELSA Speak」を活用した発音学習に関する実践研究、そして英語主要動詞の使用実態をジャンル差および地域差の観点から分析し、中高英語教育における動詞指導への示唆を探る研究の 3 件の発表が行われました。

政治談話分析、AI を活用した英語教育、英語教育への応用を視野に入れた言語研究と、扱われたテーマは多岐にわたり、REP の特徴である研究の多様性を感じさせる内容となりました。

大橋香苗 (立命館大学)

日時: 2026 年 6 月 20 日 (土) 14:00~15:15

会場: オンライン (Zoom)

発表者:

大槻きょう子 (奈良県立大学)

「政治的フライヤーにおける人称代名詞の用法: 批判的談話分析のアプローチから」

原田洋子 (大阪公立大学・独立研究者)

「ELSA Speak を用いた AI 時代の発音学習」

古本杏奈 (神戸大学大学院国際文化科学研究科)

「英語主要動詞の使用実態に見るジャンル差と地域差—中高英語教育における動詞指導の改善に向けて—」

(敬称略, 順不同)

The first Research Exchange Platform (REP) meeting of the 2026 academic year was held online on June 20, 2026. The program featured three presentations: a study examining the use of personal pronouns in political flyers from the perspective of Critical Discourse Analysis; a practical study on pronunciation learning using the AI-powered pronunciation tool ELSA Speak; and a study exploring genre- and region-based differences in the use of major English verbs and their implications for verb instruction in secondary English education.

The topics covered a wide range of areas, including political discourse analysis, AI-assisted English language learning, and language research with applications to English education. The meeting thus reflected the diversity of research interests that REP aims to promote.

Kanae Ohashi (Ritsumeikan University)

Date and Time: Saturday, June 20, 2026, 14:00–15:15

Venue: Online (Zoom)

Presenters:

Kyoko OTSUKI (Nara Prefectural University)

Yoko HARADA (Osaka Metropolitan University)

Anna FURUTANI (Graduate School of Intercultural Studies, Kobe University)

* Titles omitted; names listed in no particular order

■ 2026 年度第 2 回支部講演会のお知らせ ■

Kansai Chapter Second Lecture Meeting of AY 2026

2026 年度第 2 回支部講演会は、2026 年 10 月 17 日 (土) に「授業学 (関西) 研究会」による講演を予定しています。支部の研究会の活動を知る良い機会です。皆さまのご参加をお待ちしております。詳細は、支部ホームページ (<http://www.jacet-kansai.org/>) をご覧ください。

日時: 2026 年 10 月 17 日 (土) 15:20~17:00

会場: オンライン (Zoom) (アクセス情報は後日お知らせします)

講師: 村上裕美 (関西外国語大学短期大学部教授)

演題: 「授業学研究は教師の授業をどう支えるのか—「教え方」から「学習者の学び」を問い直す—」

How Can Classroom Research Support Teachers' Classroom Practice?

—Rethinking Teaching from the Perspective of Learners' Learning—

概要: 詳細は <http://www.jacet-kansai.org/> にてご確認ください。

参加費: JACET 会員は参加費無料、非会員は有料 (500 円) ※事前に上記ホームページからお申し込みください。

使用言語: 英語および日本語

The Kansai Chapter Second Lecture Meeting of the 2026 academic year by Developmental Education SIG will be held on Saturday, October 17. We will inform you later about the details via our website (<https://jacet-kansai.org/>).

Date: Saturday, October 17, 2026, 15:20-17:00

Venue: Online (TBA)

Speaker: Hiromi MURAKAMI (Professor, Kansai Gaidai College)

Title: 「授業学研究は教師の授業をどう支えるのか—「教え方」から「学習者の学び」を問い直す—」

How Can Classroom Research Support Teachers' Classroom Practice?

—Rethinking Teaching from the Perspective of Learners' Learning—

Abstract: Details will be available on the Kansai Chapter website (<https://jacet-kansai.org/>).

Fee: JACET member, free; nonmember, 500 yen.

Pre-registration is required.

Main language: English and Japanese

■ 2026 年度第 2 回研究交流会 (REP) 発表募集 ■

CFP for the 2nd REP Meeting

第 2 回 REP の申し込みを受け付け中です。REP は「多様性」をキーワードとする新しい研究プラットフォームで、幅広い内容、タイプ (リサーチ系・実践系・その他)、形式 (研究構想・中間報告・ワークショップなども含む) の発表を歓迎します。

○発表枠 30 分 or 60 分
○発表申し込み締め切り 2026 年 9 月 17 日 (木)
○申込フォーム (application form) :
<https://forms.gle/DYd9QgSCa7E67jdT7>
○開催日 2026 年 10 月 17 日 (土) 1400~1510 (予定)

Applications are now being accepted for the 2nd REP Meeting. REP is a new research platform centered on the keyword “diversity,” welcoming presentations across a wide range of content, types (research-based, practice-based, and other), and formats (including research proposals, interim reports, workshops, and more).

○ Presentation slots: 30 minutes or 60 minutes
○ Submission Deadline: Thursday, September 17, 2026
○ Application form:
<https://forms.gle/DYd9QgSCa7E67jdT7>
○ Event date: Saturday, October 17, 2026, 14:00-15:10 (tentative)

■2026 年度 JACET 関西支部大会のお知らせ■ Notices about Kansai Chapter 2026 Conference

2026 年度 JACET 関西支部大会を、2027 年 3 月 6 日 (土)、龍谷大学深草キャンパスにて開催いたします。大会テーマは、「ことば・対話・学びの未来」です。生成 AI をはじめとする急速な技術革新や社会の変化によって、英語教育・語学教育を取り巻く環境は大きく変わりつつあります。一方で、他者とことばを交わし、互いの声に耳を傾けながら学ぶことの意味は、これからの時代においても重要であり続けるでしょう。本大会では、「ことば」「対話」「学び」という 3 つの視点から、これからの語学教育・応用言語学のあり方について、ともに考えます。今回の大会では、午前と午後にわたり、異なる視点から「これからの学び」を考える 3 本の基調講演を予定しています。

【基調講演 1: 午前】

矢野浩二郎先生 (立命館大学 教育開発推進機構 教授)

講演題目 (仮):

“What Should Assignments and Assessment Look Like in the Age of Generative AI?”

(生成 AI 時代にふさわしい課題と評価とは)

生成 AI の普及によって、これまで当然とされてきた課題の出し方や学習成果の評価のあり方は、大きな転換点を迎えています。生成 AI をめぐる変化を踏まえ、これからの大学教育において、課題や評価はどのように設計されるべきなのかを考えます。

【基調講演 2: 午後】

高山芳樹先生 (東京学芸大学 教職大学院 教授)

講演題目 (仮):

「学習者の視点から AI を活用した英語授業を再考する」
AI を活用した英語授業が広がるなか、授業の中心にいる学習者の視点から、AI と英語学習・英語教育の関係を改めて考えます。AI を「どのように使うか」だけではなく、

AI を活用することで学習者の学びがどのように変わるのかという視点から、これからの英語授業の可能性を探ります。

【基調講演 3: 午後】

村田和代先生 (龍谷大学 副学長)

講演題目 (仮):

「話し合いと聞きあい: 英語コミュニケーション指導への視点」

「話す」ことだけでなく、「聞く」こと、そして互いの声に耳を傾けながら意味をつくり出すことに焦点を当て、英語コミュニケーション指導を捉え直します。ことばを通じた対話のあり方から、これからの英語教育について考える機会となることが期待されます。

3 本の基調講演を通して、生成 AI 時代の「学び」、人と人との「対話」、そしてそれらを支える「ことば」について、多角的に考える機会を提供します。研究・教育実践の立場を問わず、多くの皆様にご参加いただき、これからの語学教育・応用言語学について活発な議論を交わしていただければ幸いです。

■大会発表の募集■

本大会では、学会員の皆様からの研究発表・実践報告等を募集いたします。

発表申込受付期間: 2026 年 10 月 1 日 (木) ~ 11 月 30 日 (月)

大会テーマに関連する研究・実践はもちろん、英語教育・外国語教育・応用言語学に関する幅広い発表を歓迎いたします。ぜひ奮ってご応募ください。

日時: 2027 年 3 月 6 日 (土)

会場: 龍谷大学 深草キャンパス

大会テーマ: 「ことば・対話・学びの未来」

皆様のご参加・ご応募を、関西支部一同、心よりお待ちしております。

■Kansai Chapter 2026 Conference■

The Kansai Chapter 2026 Conference will be held on Saturday, March 6, 2027, at the Fukakusa Campus of Ryukoku University.

The conference theme is:

“The Future of Language, Dialogue, and Learning”

With the rapid development of generative AI and continuing changes in society, the environment surrounding language education is undergoing significant transformation. At the same time, the importance of learning through language, engaging in dialogue with others, and listening to one another remains fundamental. Under the theme of “The Future of Language, Dialogue, and Learning,” this conference will explore the future of language education and applied linguistics from these three interconnected perspectives.

We are pleased to announce three keynote lectures that will address the future of learning from different perspectives.

【Keynote Lecture 1: Morning】

Kojiro Yano, Professor, Institute for Teaching and Learning Development, Ritsumeikan University

Provisional title:

“What Should Assignments and Assessment Look Like in the Age of Generative AI?”

The widespread use of generative AI is prompting us to reconsider conventional approaches to assignments and assessment. This keynote will explore how assignments and assessment should be designed in higher education in an era increasingly shaped by generative AI.

【Keynote Lecture 2: Afternoon】

Yoshiki Takayama, Professor, Graduate School of Teacher Education, Tokyo Gakugei University

Provisional title:

*“学習者の視点から AI を活用した英語授業を再考する”
(Rethinking AI-Enhanced English Lessons from the Learner's Perspective)*

As the use of AI in English classrooms continues to expand, this keynote will reconsider the relationship between AI and English learning from the learner's perspective. Rather than focusing solely on how AI can be used, the lecture will explore how AI may transform learners' experiences and possibilities for learning.

【Keynote Lecture 3: Afternoon】

Kazuyo Murata, Vice President, Ryukoku University

Provisional title:

“話し合いと聞きあい: 英語コミュニケーション指導への視点”

(Talking and Listening to One Another: Perspectives on Teaching English Communication)

Going beyond the ability to “speak,” this keynote will focus on listening to others and creating meaning through interaction. It will consider how we might rethink English communication instruction by placing dialogue and mutual listening at the heart of language learning.

Together, these three keynote lectures will provide an opportunity to consider the future of learning, dialogue, and language in an era of generative AI and rapid social change. We warmly invite researchers, teachers, and practitioners from a wide range of backgrounds to join us in exploring the future of language education and applied linguistics.

■Call for Presentations■

We are now inviting **research presentations and reports on educational practice** from JACET members.

Submission period: October 1–November 30, 2026

We welcome a wide range of presentations related not only to the conference theme but also to English language education, foreign language education, applied linguistics, and related fields.

We strongly encourage you to submit your work and look forward to welcoming many presentations from members of the Kansai Chapter and beyond.

Date: Saturday, March 6, 2027

Venue: Fukakusa Campus, Ryukoku University

Conference Theme: *The Future of Language, Dialogue, and Learning*

We look forward to your active participation and

presentation submissions.

■ 紀要編集委員会より ■

Message from the Bulletin Editorial Committee

2026 年 7 月 1 日より、第 29 号の投稿受付を開始しています（投稿締切: 9 月 30 日）。第 25 号から「研究論文」「研究ノート」「実践研究論文」「実践ノート」

（以上査読有）「SIG 報告」（査読無）の 5 つの種別への投稿が募集されています。「研究論文」「実践研究論文」は 20 ページ以内、「研究ノート」「実践ノート」は 15 ページ以内、「SIG 報告」は 6 ページ以内となっています。詳細は JACET 関西ウェブサイトをご覧ください。

支部ホームページ (<https://jacet-kansai.org/journal/>) の投稿用テンプレート (WORD) をそのままご使用いただければ幸いです。

投稿期限: 2026 年 9 月 30 日 (水) 午後 11 時 59 分

論文送付先: 紀要編集委員会 事務局長

星原光江 (京都ノートルダム女子大学)

[jacetkj \[AT\] gmail.com](mailto:jacetkj[at]gmail.com)

提出方法: ウェブサイトでの申し込みと電子メールでの添付ファイル (WORD と PDF)。

(原稿郵送は受け付けません。)

※ 受領後 3 日以内に事務局より確認の返信が届きます。万一、3 日経っても返信が届かない場合は、星原光江まで再度ご連絡ください。

※ 提出方法の詳細は、支部ホームページ

<https://jacet-kansai.org/journal/>

をご覧ください。

重要な日程:

2026 年 9 月 30 日 (必着)	投稿原稿締切
2026 年 11 月 30 日	審査結果通知
2027 年 1 月 6 日 (必着)	最終修正原稿締切
2027 年 3 月 31 日	刊行

We welcome your submissions for the next issue, JKJ No. 29, which requires online registrations starting on July 1st. Please check the guidelines for details on the submission procedures and requirements. You can find the details on the JACET KANSAI website.

Please use our template so that we can minimize our proofreading process.

1. Go to JACET Kansai Journal website, and submit your application.
2. Send your manuscripts (WORD and PDF) to:
Mitsue HOSHIHARA (Kyoto Notre Dame University)
JACET Kansai Journal Secretariat
[jacetkj \[AT\] gmail.com](mailto:jacetkj[at]gmail.com)

If you do not receive a message confirming the receipt of your manuscript within 3 days, please request confirmation. Only e-mail submission will be accepted. Postal submission of paper-based manuscripts will NOT be accepted. Prepare your manuscript according to the JKJ

instructions using Microsoft Word. Send it as an attached file with an email message to Mitsue HOSHIHARA, Secretariat, JACET Kansai Journal.

Important Dates:

- Deadline for manuscripts:
September 30, 2026 (via email as an attached file)
- Announcement of editorial decision:
November 30, 2026
- Deadline for receipt of revised final manuscripts:
January 6, 2027 (via email as an attached file)
- Publication: March 31, 2027

Please refer to the guidelines and template at the Kansai Chapter website (<https://jacet-kansai.org/journal/>).

■ 事務局より ■

Messages from the Kansai Chapter Office

9月になってもまだまだ猛暑が続いております。皆さまに於かれましてはいかがお過ごしでしょうか。さて、今年度第2回支部講演会・研究交流会が10月17日（土）にオンラインで、支部大会が2027年3月6日（土）に龍谷大学深草キャンパスで開催予定です。皆さまのご参加をお待ちしております。

Although September has arrived, the intense summer heat continues. We hope that you are all keeping well. The chapter's second lecture meeting and research exchange of the academic year will be held online on Saturday, October 17, while the Kansai Chapter Conference will be held on Saturday, March 6, at Ryukoku University's Fukakusa Campus. We warmly encourage you to join us.

■ 会員情報の変更 ■

Updates to Member Information

支部会員向けの各種案内の配送やメーリング・リストによる情報の配信に使用いたしますので、会員情報（住所、メールアドレス、所属、電話番号など）が変わられた方は、必ず本部事務局（jacet@zb3.sonet.ne.jp）までご連絡ください。なお、関西支部では名簿の作成・管理は行っておりません。

特に、支部からの案内メールが宛先不明で数多く戻ってまいります。ご登録のメールアドレスをご確認ください。

Please immediately report any changes in your address, affiliation, e-mail address, telephone numbers, and other information to the JACET Main Office (jacet@zb3.sonet.ne.jp).

■ あとがき ■

Editors' Note

本号の発行にあたり、ご執筆・ご校正にご協力いただいた先生方に心より感謝申し上げます。九月も半ばとなり、まだ暑さが残る一方で、朝晩には秋の気配も感じられるようになってきました。季節の変わり目、どうぞお体にお気をつけてお過ごしください。次回は12月発行予定です。

石田 菖（関西大学）
神谷 健一（大阪工業大学）

We would like to express our heartfelt gratitude to all the colleagues who contributed through writing and proofreading for this issue. As we reach mid-September, the lingering heat remains, yet the mornings and evenings already carry a touch of autumn. Please take good care of yourselves during this change of season. The next issue is scheduled for publication in December.

Ayame Ishida (Kansai University)
Kenichi Kamiya (Osaka Institute of Technology)